

令和6年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

| | | |
|-------------|---|---------------|
| 開催日時 | 令和6年10月21日(月) | 10時30分~12時00分 |
| 開催場所 | 半田市役所4階 会議室402 | |
| 会議次第 | 【議題】 第3章 基本施策3 「医療体制」 (1) 所管課長説明 (2) 質疑 (3) 評価 | |
| 出席委員 | (副委員長) 鈴木 (座長) (委員) 桑山、榊原、沢田(貢)、岩浪、上野 ※敬称略 | |
| 事務局 | 企画課長、企画課(斎藤・倉野・武田) | |
| 出席職員 | 健康課長、病院管理課長、病院医事課長 | |
| 議事概要 | | |
| (1) 所管課説明 | 資料及び事前質問回答に基づき、説明(健康課長) | |
| (2) 質疑 | <p>(副委員長) 医療体制が充実していると思う市民の割合は減少傾向にある。このアンケートは年齢別ではなく全体で行っているのか。</p> <p>(健康課長・事務局) 全体で行っている。</p> <p>(副委員長) どの年齢層が下がっているのかはわかるか。</p> <p>(健康課長) 事務局が確認し回答する。</p> <p>(委員) 事前質問に対しての回答から、医療体制は構築されているように思われる。新病院と地域の医療機関の役割分担や一次救急と二次救急の役割分担、かかりつけ医を持つことの意味合いが明確になっており、よいと思う。 しかし、市民にはそれらのことが理解してもらえていないように思われる。 どのような医療体制が構築されているのかを改めて説明していただきたい。</p> <p>(健康課長) 半田病院ですべての患者を受け入れることは困難である。そのため、一次救急、二次救急、三次救急で受け入れる患者を分けることで、一つの病院に患者が集中することのないような体制を整えている。併せて、医師会と連携しながら市内の医療体制を構築する必要がある。 また、かかりつけ医を持つことの意味について、市民に周知しきれていないことは実感している。市として、かかりつけ医の必要性を市民にわかってもらえるようなアプローチをしていく必要がある。現状はホームページや市報で周知している。ホームページをあまり見ない高齢者に対しては、高齢者が集まる場所に直接出向いて説明をしたり、医師会と連携して、医療機関に周知の協力依頼をしたりするなど、やり方は様々あると思う。</p> | |

(委員)

成果指標だけで、医療体制の充実度を測ることは難しいところがある。市民は、他の自治体と比較して半田市の医療体制がどのくらい充実しているかを判断すると思うが、そもそも比較できる数値が少ないし、市民に知られていない。

成果指標を上げるためには、他市町との比較を市民にどのように伝えるかを考えることも必要であると思う。その一方で、本来の目的とずれている気もする。何をどうやって市民に伝えるかについては難しい問題であると改めて感じた。

事前質問への回答を見る限りでは、様々な体制を整えていただいていることがわかり、半田市民として安心だと感じた。

(副委員長)

民間企業だとよく他と比較をするが、自治体はあまり他自治体との比較をしないように思われる。

市民は、他自治体と比較した情報も必要としているのではないか。比較結果のPR方法を考える必要があるかと思う。

(委員)

感染症に対する医療体制について事前質問をしたが、大規模災害時の被災地医療体制について、どのように考えているか。

(病院管理課長)

半田病院に限定して回答する。

コロナ禍では、コロナが疑われる患者は常滑市民病院、救急患者は半田病院で受け入れるという機能分担を行った。

この機能分担については、一定の成果を上げたと考える。実際に、他の地域で救急車の受け入れが困難になっている時期でも、知多半島内からの救急依頼は概ね断ることなく、受け入れることができた。また、お盆や年末年始など感染者が増え、他の病院における受け入れが困難となったときには、コロナ専用病床を確保するなど、臨機応変な対応を取ることができた。

災害医療に関して、新病院は日本で一番と言えるような免震装置が備わっており、十分な耐震設備が整っている。

それに加えて、DMAT（ディーマット）という災害派遣の医療チームが半田病院には3チームある。被災地に派遣し、実際の現場を経験することで訓練を積み、実際の災害時には災害医療の中心的役割を担うこととなる。しかしながら、実際に災害が発生した際は、半田病院単独で災害医療を担うことは現実的に不可能であるため、地域の医療機関との連携はもちろんのこと、全国のネットワークを十分に活用しながら、広域で連携する必要がある。実際に年初めの能登半島地震では、半田病院からも1月2日から被災地派遣をしており、広域での連携は大規模災害が生じるたびに進化している。

(委員)

新病院のアクセスについて、半田市内のどこからでも片道1,000円で病院へ行く直行タクシーについてはどのように考えているか。

直行タクシーは、半田市内からのみ利用できるのか、それとも市外からも利用できるのか。

(病院管理課長)

半田市としての施策であり、半田市内からのみになる。

直行タクシーについては、都市計画課が担当になる。

(副委員長)

他の市町村において、複数の自治体が広域的に連携して病院を運営している事例はあるか。

(病院管理課長)

県内にも西知多病院や陶生病院など一部事務組合により運営されている病院がある。

半田市と常滑市のような、2つの病院を残しながら経営統合し、さらに新病院の開院に合わせたものは全国にも例がないと思われる。

(委員)

愛知県内において半田市の医療体制の充実度はどの位置にあるのかを示す指標はあるのか。

(健康課長)

県内の情報については収集していない。また、指標についてもわからない。

(委員)

医療機関の数は知多医療圏の市町と比較して多く、医療体制は充実しているとわかるが、医療機関数の増加を推進しているわけではないということでしょうか。

(健康課長)

医療機関数を増やすことは自治体の使命ではない。自治体としては、例えば休日診療の充実を図ることなどが、市民にとっての医療機関の充実に繋がると考える。

(委員)

知多半島には、行政が関わっている病院があるのか。

(病院管理課長)

半田病院、常滑病院、西知多病院、国立長寿医療センター、あいち小児保健医療総合センターがある。

(委員)

医師会は、各市町にそれぞれあるのか。

(健康課長)

知多郡医師会や東海の医師会などがある。

(委員)

半田市は単独の医師会がある。

半田市医師会と半田病院の関係性を理解できていない市民の方は多いと思う。

また、そういう観点で病院を見る人も少ないと思う。

他市町と比較する指標が周知できれば、半田市の医療体制の充実度をよりわかってもらえるのではないか。

(健康課長)

他市町との比較を市民に周知することは大切だと思う。

併せて、自分や子どもが病気にかかった時に受診できる医療機関についての情

報を周知することも、充実感に繋がると思う。

休日の歯科診療でいくと、半田、武豊、阿久比、東浦で構成している、半田歯科医療センターがある。半田市以外の他 3 町には同様の施設はない。常滑市や美浜町、南知多町にも同様の施設はない。半田市民は、他の市町に行かずとも、市内で休日歯科診療を受診することができる。

(委員)

半田市にそのような施設があることは凄いことなのに、市民にとっては当たり前のことになっている。やはり、他の自治体と比較することで、半田市の優位性がより明確になるのではないか。例えば、総合計画の冊子に半田市内の病床数が載っているように、数で他自治体と比較すると市民にとってもわかりやすい。この数値を他の市町のものと比較するだけでも、市民にとってわかりやすい指標になるのではないか。

(副委員長)

医療機関を受診して初めて、医療体制が充実していると感じる。コロナ禍で、ワクチン接種が広まり、病院に行く機会が増えたことで、医療体制が充実していると感じる方が増えたのではないか。成果指標は年々下がってきているが、それはコロナが収束したことで病院にかかる人も少なくなり、医療体制を身近に感じる機会が減ったことで、成果指標も少し落ちたのではないか。数値としては下がっているが、実際はそれほど変化がないのではないかと考えられる。

(委員)

事前質問に対する回答を見ると、半田市の医療体制は充実しているということがわかる。しかし、達成度を見ると、明らかに市民とのギャップがある。その理由が PR 不足なのであれば、もっと PR していくべきであるが、市民が何かに対して不満を持っているのであれば、その不満を解消するような取組を実施することで、医療体制の充実感を持ってもらえるのではないか。全国で、医療体制が充実している自治体の PR 方法を参考にすることもいいのではないか。

(健康課長)

他市町を参考にしながら市民のニーズをくみ取った取組をしていく。

(副委員長)

他自治体の PR 方法を真似るとするのは新しい意見であった。医療体制だけではなく、他の施策においてもそのようなやり方ができる。半田市と同じような状況の市町を真似ることも一つの方法である。

(委員)

半田市の一次救急に該当する病院はどこか。

(病院管理課)

一次救急は新聞の当番医欄や市報の緊急医療機関欄に掲載されているような病院と思っていただければと思う。二次救急は知多半島だと、常滑市民病院、知多厚生病院、西知多病院などがある。

(委員)

休日歯科の先生は交代制なのか。休日歯科診療所は建物の老朽化も進んでいて、雰囲気怖い。

(健康課長)

先生は交代制であり、歯科医師会が運営している。半田市としては補助金を出している。

雰囲気については、意見を共有しておく。

(委員)

知り合いが若くして乳がん罹患したときに、評判によると半田病院の対応は弱いと聞いたため、市外の医療機関にかかった。子育て真っ最中の方であったため、手術の後どうするのか、など心身共に疲れ切った状態であったと聞いた。

はたらく親を応援するまちを掲げるのであれば、特に女性は乳がん発症率が高いため、若い世代ががんにかかった時の体制を整える必要があるかと思う。新病院に変わることによってその点は充実していくのか。

(病院管理課長)

確かに、今の半田病院はがんに対して弱い部分があるという認識はあり、今後に向けて充実させていきたいという考えはある。

その一方で、少子高齢化の影響は医療業界にも大きく、働く人は減っていく。反対に高齢者の増加により患者数は増えている。そうなる一つの病院ですべての患者を対応することは難しくなってくる。かつて、国は医者の数を増やすために医学部を増やすことなどについて議論していた。しかし現在は、既にいる医療従事者を地域でいかに上手く活用するかという方針になっている。半田市は、幸いにも近隣の名古屋市などにがんセンターや大学病院がある。半田病院における充実への取組を進める一方で、広域的に見て充実度を高めていく必要もあると考える。

(副委員長)

半田病院のみで完璧を目指すのではなく、広域的に医療体制の充実を図ることがわかった。しかし、そのことについても市民に周知ができていないと、半田市の医療体制が充実していないという認識になってしまう。

それぞれの病気に強い病院があるので、そのことを広く市民に周知する必要がある。

病気になって、手術等した後の患者のケアについて、十分にされていると思うので、市民への周知に力を入れてほしい。

(委員)

半田病院の跡地について、何か考えているのか。

(病院管理課長)

検討段階で結論は出ていない。

(委員)

チャレンジ 2030 において、地域医療連携推進法人の設立とあるが、どういう方針でいるのか。

(病院管理課長)

一つの病院では医療を完結できない。地域のかかりつけ医から何かあった時に高次病院へ紹介があり、手術後にリハビリが必要な場合はその専門病院へかかることになる。連携を図ることが重要であり、そのような組織体制をつくることを目標としている。当面は、半田と常滑の統合、地域との連携も含めた機能

| | |
|--------|--|
| | <p>分担を安定させることが必要となってくる。</p> <p>(委員) 全国では広域連携を進んでいるところはあるのか。</p> <p>(病院管理課長) 愛知県では、尾三会（びさんかい）というものがあり、半田は半田中央病院が属している。 最終的には介護分野も含めた広域連携ができるとよいとも考えている。</p> <p>(副委員長) 半田病院で一番患者数が多い科はどこか。</p> <p>(病院医事課長) 半田病院は急性期の重篤な患者を集中的に受け入れているため、生命にかかわるような、循環器科、脳神経外科の患者が多い。 また、交通事故等で搬送された方で整形外科にかかる患者も多い。</p> <p>(副委員長) そうすると、そのような患者数の多いところに、医者を多く配置するということになるのか。</p> <p>(病院管理課長) 他とのバランスも見ながらになるが、概ねそうである。 救急あるいは地域の医療機関からの紹介で入院となる方が多い。また、生命に係る心臓疾患と脳疾患については、24時間365日専門医を常駐させている。 半田病院が救命センターであることを踏まえ、引き続きそのような部分やがん治療の主要科などに力を入れていく必要があると思っている。</p> |
| (3) 評価 | <p>(委員) 〈A評価〉 新病院ができてからの役割分担や、災害時の対応などを聞いて、このまま進んでいけば医療体制が整っていきそうだった。 新病院へのアクセスについても計画しており、良くなりそうだった。</p> <p>(委員) 〈A評価〉 半田で子育てをしようと思ってもらうことにおいて、医療体制は重要だと思う。他市町との連携に関する回答も含めて、安心できると感じた。PR を具体的に行うと、半田市の医療機関を活用したいと思ってもらうことができ、半田に住んでいる方が安心して暮らすことができると感じた。 大規模災害や感染症に対する、常滑病院との連携について、コロナ禍を踏まえて、今後のことを考えている点も安心した。</p> <p>(委員) 〈A評価〉 他の市町に比べて体制が整っているところは良い点である。改善が必要な部分として、半田病院と医師会の役割がそれぞれにあることはわかったが、両者共同で目指す目標値があるとよいのではないかと。 指標の達成のためにも市民への広報活動に力を入れるべきである。</p> |

(委員)

〈A評価〉

数値としては下がっているが、全体的に様々な取組を行っており、新病院についても最先端のもの取り入れたりしているところは評価できる。新病院への交通アクセスについても、色々と考えられており、良いと思う。

(委員)

〈A評価〉

各医療機関の役割分担や、かかりつけ医の重要性等について、きちんと考えられていることがよくわかった。PR についてはもう少し力を入れるべきである。市民のニーズを今一度確認する必要がある。

(副委員長)

〈A評価〉

合理的な医療体制を実施し、常滑市との新しい連携についても着実に進んでいることがわかった。

医療はあって当然と市民は思いがちである。他自治体と比較できる数値が少ないがゆえに KPI にもその結果が出てしまった。医療体制が充実していると思う市民の割合が 49.3%から 47.7%に下がってはいるが、統計学上は誤差の範囲である。きちんと数値を維持していると思われる。

PR の方法については、やり方の検討が必要である。市の広報担当と連携して取り組んでいけると良い。

(副委員長)

全体としての総評は、A 評価としてよろしいか。

(全員)

異議なし

(副委員長)

最終的な評価の決定は次回 12 月 19 日の会議で行う。